

.....
あいセーフティネットの誇り
.....

認知症支援

4つの基本方針と
7つの提言



社会医療法人
河北医療財団

多摩事業部

はじめに

あいセーフティネットとは

協業、協働で担うサービスのプラットフォームである。

「認知症であっても生涯安心して地域で生活し続けられるよう
寄り添っていく」ことを基本姿勢としている。

認知症ケアは管理、指示、教育するものではない。

ご本人の意向を無視することには当然抵抗があり

「不穏」扱いされるべきではない。

各事業所、関わる全職員の認知症ケアへの原点を

再度「共有」するためにこの冊子が作られた。

作成のため、プロジェクトを立ち上げ、

現場からチームを編成し、現状を把握し

議論し、合意形成をしていく。

あいセーフティネットの認知症ケアに誇りを持てるように！

誇り

社会医療法人河北医療財団 理事長相談役

天本 宏(あまもと ひろし)

あいセーフティネットの理念

「信頼と安心の創造」

24時間・365日 チームで活動、実践して、
地域からの信頼を得、安心を作り出すことを
理念とする

職員行動指針

Heart Work【愛】

私たちは、対人援助
サービスを提供する者として、人
を思い、心を尽くして人に接します。
そして職員同士やその家族に対し
ても、これを大切に行動
します。

Head Work【智恵】

私たちは、常に新しい
知識技術を習得し、更に日々の
実践から体得する智恵を活用し、
柔軟な発想で様々な可能性を
見出していきます。

Foot Work【行動】

私たちは、人を思う
気持ちや智恵を迅速に行動に
つなげます。そして、必要とされる
方のところへ自ら出向く姿勢を
大切にします。

認知症支援の4つの基本方針

1 認知症の方の医療・ケアを含めた生活支援を積極的に行います

- あいセーフティネットは、地域高齢者の生活支援機関です。
- 認知症は、高齢者において誰もがなる可能性のある状態であり、地域高齢者の生活支援をすることは地域の認知症高齢者を支援することです。
- 認知症の方の生活支援とは、その初期から終末期すべての期間において、「その人らしい」生活の実現を行うことです。
- 認知症の方は生活に支障をきたしますが、医療・リハビリ・ケアがそれぞれ独立せず、職種や機関によらない総合的、チームケアを行うことでその実現が可能になると考えます。

2 認知症であってもなくても「その人らしさ」を尊重した支援を行います

- 私たちが行う支援内容は、「認知症」という状態や「認知症」をきたす疾患名で決定されるものではなく、認知症の正しい理解に基づいて、個々のもつ能力や意志が優先され決定されるものです。
- 「その人らしさ」の尊重とは、認知症の早期から終末期まで「いつ」「どこ」「どのような状態」でも、個性や意志を重んじた、本人らしさを表現、具体化しようとすることです。

3 認知症の方や関わる人のもつ力に焦点をあてた、与えるサービスから引き出すサービスを目指します

- 一方的に与えるサービスより、それぞれの力を共に引き出し、活かしていく支援には、発展性や連続性があり、関わる全ての人の成長や自己実現を可能にすると考えます。
- 誰もがなり得る、身近な状態である認知症の支援は、特別な機関で特別な人が行うものではありません。
- 地域に生活する一人ひとりが自身の能力を活かし、自分のこととして支援に参加するものです。

4 認知症の方の生活する地域や社会のニーズの変化に対応します

- 認知症の方の支援は、認知症の方のニーズに合わせるものであって、サービス提供側のニーズに合わせるものではありません。
- 認知症の方の生活する社会や地域の中で、常に何を期待され、求められているかを意識し、地域内満足を進めます。

基本方針を7つの提言 具現化するための

1 認知症の方に対する積極的な支援は全職員の使命です

2 認知症を正しく理解しよう

3 いつ、どこ、どのような状態でも、個性や意志、能力を尊重した生活を実現しよう

4 職種・部署・施設間の連携を強化し、地域内連携を行おう

5 一方向ではなく、認知症の方・家族・職員の互いの力を活かそう

6 「その人らしさ」の実現を家族や職員の自己実現にもしよう

7 認知症の方・家族・地域・社会から、今、何を求められているかを常に意識しよう

1 認知症の方に対する積極的な支援は 全職員の使命です

なぜならば

高齢化がすすむ多摩ニュータウンの市街地の中で、天本病院開設当初(1980年)から、認知症であっても地域で生活し続けられる医療、利用者本位の「暮らしの場での医療」を提唱し、『あいセーフティネット』として医療・介護・福祉の事業を展開してきたから。

医師、看護職、介護職、リハビリ職、相談職、栄養士、薬剤師、検査技師、放射線技師、心理職等、直接利用者さんに関わる職員のみならず、事務職員や間接的に関わる職員「あいセーフティネット」の全職員の使命です。



100-1=0

ゲートオープナー



2 認知症を正しく理解しよう

なぜならば

認知症は誰もがなりうるもので、多くの人にとって身近なものとなっている。

ご本人、ご家族、職員、地域の人、誰もが偏見なくお互いの尊厳を大切にしながら自分らしく最期まで暮らし続けるため。

ご本人に寄り添い、地域で暮らし続けられるよう、支えとなるような働きが期待されている。

職員に向けての取り組み

●多摩事業部での取り組み

新入職者研修「認知症の基礎と支援」「認知症サポーター養成講座」
サークル「認知症ケアを考える会」

●各事業所での取り組み

認知症の課題を含んだケースカンファレンス
認知症ケアマニュアルの作成、運用(天本病院)
認知症ケア検討会活動(認知症対応力向上研修)／抑制削減検討委員会活動
認知症看護認定看護師による勉強会
虐待防止に向けた研修

●外部研修

認知症サポート医研修／東京都かかりつけ医認知症研修
東京都看護職員認知症対応力向上研修(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)
東京都認知症介護研修(基礎・実践者・リーダー・指導者)
地域密着型協議会の研修

地域に向けての取り組み

●認知症はじめて教室

認知症に関わるすべての方を対象にはじめに知っておきたい基礎知識(医療・ケア・社会資源)についての講座を開催しています。

●コミュニティカフェ

からきだ匠カフェ(あい介護老人保健施設)

大学や社会福祉法人と連携し開催しています。「多世代」「居心地が良い場所」をコンセプトにした誰でも楽しめるコミュニティカフェです。

※【過去のテーマ】

- Ⅰ旅のことば(入門編・活用編)
- Ⅱ認知症サポーター養成講座forキッズ
- Ⅲ「もしも」を読んでみましょう

●ものカフェ・ネコサポかふえ

(多摩市中部地域包括支援センター)

多摩市内のNPO法人や民間事業所と連携し開催しています。

●市民公開講座

地域の方に向けて認知症のテーマで講座を開催しています。

※【過去のテーマ】

- Ⅰ認知症と共に暮らす(2008年)
- Ⅱ安心して認知症を生きるために地域のみんなでできること(2015年)
- Ⅲいつまでも安心して暮らすために～認知症はこわくない～(2019年)

●家族会

介護しているご家族に向けた支援活動です。

●相談

認知症お困りごと相談(天本病院)

在宅なんでも相談室「すずらん」(あいクリニック)

天本病院・あいクリニック内の主としてもの忘れ外来に通院中のご本人ご家族を対象とした相談の場です。

※【主な相談内容】

- Ⅰ日々の対応やケアの工夫
- Ⅱ身体介護や看護の方法
- Ⅲ地域の相談窓口やサービス・社会制度

●認知症サポーター養成講座

自治会や学校からの依頼で開催しています。

●広報誌「あっぱれ」

地域の方に向けた年4回の季刊誌に認知症の特集を掲載しています。

※【掲載の一部】

- Ⅰ2018年夏号「もしかして、認知症？」
- Ⅱ2019年秋号「いつまでも安心して暮らすために～認知症はこわくない～」

●RUN伴多摩

誰もが暮らしやすいまちづくりを考える普及啓発イベントとして、全国各地で開催されています。
多摩市内では2016年から認知症の方とともにタスキリレーを楽しみながら、あいセーフティネットも後援しています。

●認知症関連情報の発信

認知症はじめてガイド(2015年発行)
認知症関連情報コーナー(天本病院)

3

いつ、どこ、どのような状態でも、個性や意志、能力を尊重した生活を実現しよう

なぜならば

認知症になってもすべての人が持っている人間性は守られるべきものだから。

いつでも : 24時間、365日、診断前から最期まで

どこでも : 自宅、施設、病院など、あらゆる場

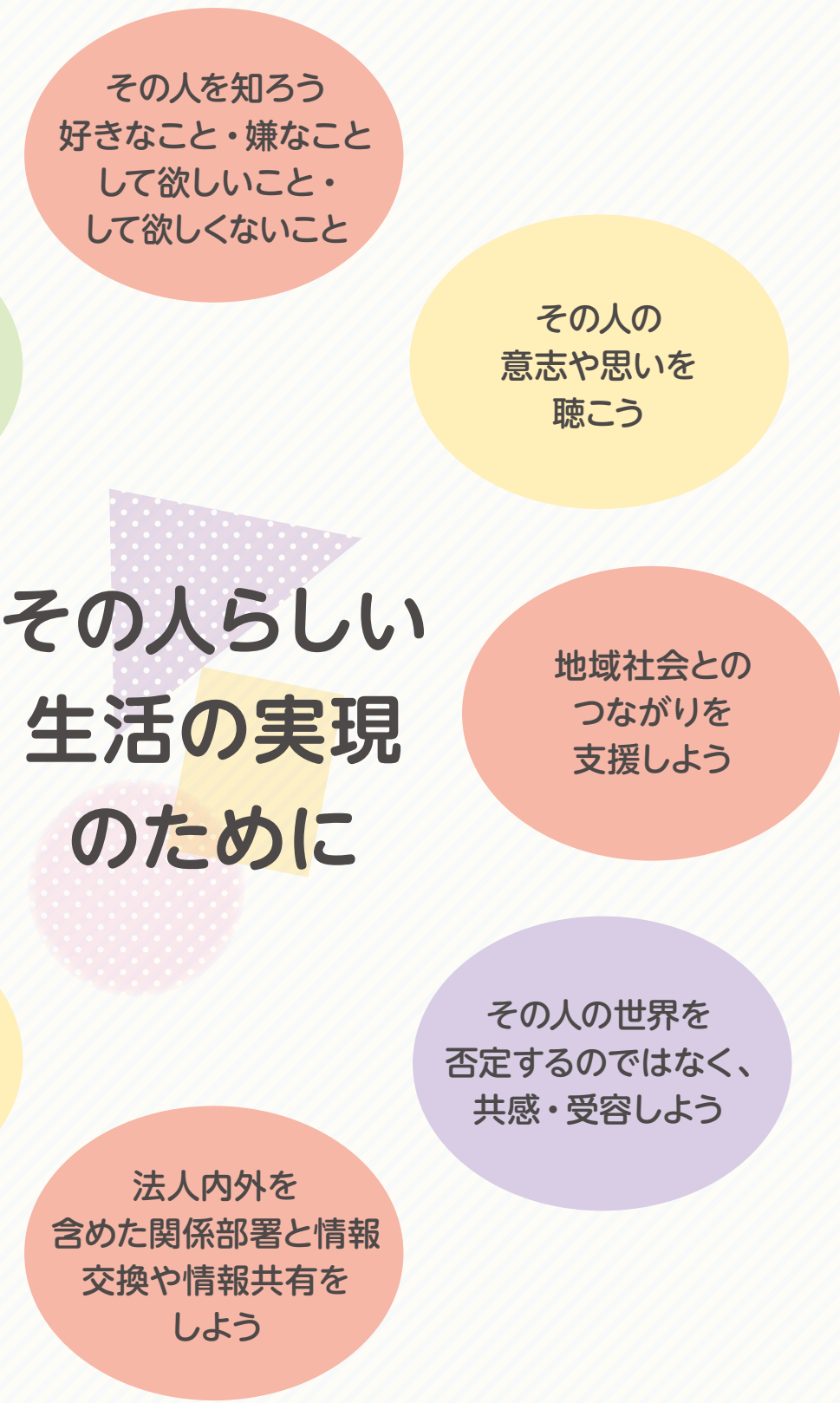
どの状態でも : 元気でも寝たきりでも、認知症であってもなくても

個性の尊重 : 診断の有無にかかわらず変わらないこと

意志の尊重 : その人の今の気持ちを大切にする

能力の尊重 : 持っている力を大切にする

生涯にわたる「トータルケアサービス」の提供



その人らしい
生活の実現
のために

2019年9月 認知症ケア冊子プロジェクトアンケート
「認知症ケアにおいて行っている具体的な取り組みや活動、ケア内容」について寄せられた回答より再構成

4 職種・部署・施設間の連携を強化し、地域内連携を行おう

なぜならば

一個人、一事業所、一法人など、単独では達成できない課題も、複数の人やサポーターが手をつなぎ協力することで、それぞれの強みが合わさり、その人の大事にしている生き方や目標を達成することができるから。

- 目的と目標実現に向かうイメージ、生活課題を共有・共感する
- 多職種による多角的アセスメントを共有・意見交換する
- それぞれの達成すべき役割分担を相互に理解する
- 足並みをそろえ相互に状況を共有して、軌道修正をしながら目標に向けて歩いていく
- 職員一人ひとりが全体を見て総合的に判断し、行動できるプロフェッショナルになる



5 一方向ではなく、認知症の方・家族・職員の互いの力を活かそう

なぜならば

職員や周囲からの一方的な関わりではなく、相方向のコミュニケーションを心がけることで信頼関係が形成され、本当に必要なケアが見えてくるから。

取り組みや関わりの紹介

あい小規模多機能施設おきな

認知症があり一人暮らしの生活が難しくなると相談がありました。ご家族と共に見学に訪れた際は、「施設に行く年齢ではない」とご家族とケンカ別れになってしまいました。後日ご本人が「確認したいことがある」と毎日訪れるようになりました。思いや不満などをお聞きする中で、おきなの様子を見て「大変な仕事だからお手伝いならしてもいい」と心境の変化がありました。家事など得意なことを頼みながら職員と関係性を作り、サービスの導入が可能になりました。その後はご本人の困りごとやしたいことに合わせ、「通い」「訪問」「泊り」のサービスを柔軟に変更し、認知症になる前の生活に近い状態で一人暮らしを継続しています。

あい訪問看護ステーション

数か月入浴できていない方がいました。排便コントロールで訪問開始し、飼っていた猫のことや出身地の話などしながら、ご家族とも一緒に徐々に関係作りをしました。足浴、清拭、更衣と段階を踏み、7か月後によりよく入浴できました。

<関わるときに大切にしたこと>

ご本人のペースと気持ちを一番に考えて関わりました。生活状況や生活歴をよく聴き、ご家族の関わり方も教えてもらいながら、気持ちよく過ごせるように根気強く保清を進め、ご本人の自主性や爽快感を大切にしました。寒さを感じないように環境調整に配慮し、頭と背中以外は自分で丁寧に洗われて、「気持ち良かったね」と笑顔が見られると、ご家族も看護師も笑顔になります。その後は毎週入られました。



あいグループホーム天の川

入居されてもそれまでの生活と変わらず、安心して生活を送れる「家」を目指しています。

食事作り、買い物、洗濯干しなど職員と一緒にいき、ご本人のできることを大切にしながら生活をしています。ご本人やご家族に昔を思い出す食べ物、よく食べていたもの、子供に作っていたものなど聞き取り、時にはご家族も参加し、一緒に作ったりする「思い出の味」という取り組みをしています。その関わりからご本人の新たな発見をご家族が教えてくれることがあります。



あい介護老人保健施設 療養ユニット

役割活動としてタオル畳みをお願いしています。時には面会に来たご家族や他のご利用者と一緒に、お話をしながら行うこともあります。和気あいあいとした雰囲気です。

タオル畳みの様子から几帳面な性格など、普段の関わりだけでは分からない部分を知ることができます。ご本人に対する理解が深まって、その方に合ったケアを考えるきっかけにもなります。



天本病院

現場で実践している認知症ケアの取り組みについて「認知症ケア新聞」を発行しています。

ご本人やご家族から伺うエピソードから、関心のあることや元々の生活を知ることができ、入院中でも活かせるよう検討を重ね実践しています。こちらは安静中もご本人の好きな編み物をする事で穏やかな時間を過ごしていただいた事例です。また、ご家族からの手紙や写真などで安心できる環境作りにも取り組んでいます。



6 「その人らしさ」の実現を 家族や職員の自己実現にもしよう

なぜならば

自己実現によって「この仕事をやってて良かった」と思えたり、「その人が喜んでくれると自分もご家族も嬉しい」と実感し、やりがいを感じることができるから。

ご本人と関わる人全員が協力して、一人ひとりがその人らしい人生を送れていたなら、ご本人もご家族も職員もみんな嬉しい。そんな状態を目指しているから。

ご家族に「あなた達が来てくれることで本人の表情も良くなるしいつもとよりよく話すのに驚く。家族だけだと息詰まる感じがするけど来てくれると家の中が明るくなって助かる。次の訪問がいつなのか本人も楽しみにしていますよ。」と言われたときはとても嬉しく、その方やご家族にとって明るく過ごせる時間をもっと広げていきたいと思いました。
(あい訪問看護ステーション)

不穏になって迷惑をかけていないかと心配して待っていたご家族が、ご自宅へお送りした時、ご利用者の表情を見て、「楽しめたようで良かった。」と安心してもらった時に嬉しく思う。
(あい介護老人保健施設デイケア)

最後までご家族の希望も伺いながら、どんぐりで生活され、お看取りまでさせてもらった時は、いろいろと学ばせていただきありがとうございます。ありがとうございました、という気持ちになると同時に、また頑張ろうと思えます。
(あいグループホームどんぐり)

看取りの後、「この施設にお願いして本当に良かった」と言われた時。
(あい小規模多機能施設おきな)

生活にサービスがしっくり馴染んでその人その家庭を支える、なくてはならないものになっている時、ここに繋がれて良かったと直接感謝の言葉をいただくこともあり励みになります。
(ケアプランセンターあいクリニック)

何もできなくなったと自信が持てていない方もいらっしゃるいますが、アクティビティを通してその人に合うできることを探して、できるように準備して、間違えても大丈夫と声をかけながら作品を作ってもらおうと、とても集中して楽しんでいただけます。「あなたと何を作ったかは覚えていないけど、楽しかったことは覚えている。ありがとう。」と言われて、やっててよかったなあと思いました。
(天本病院)

じこ-じつげん【自己実現】(名)

人間の欲求のうち最も高度であり、同時に最も人間的な欲求として、自己の内的欲求を社会生活において実現すること。自分に偽りなく好きなことをしていて、かつ、それが社会貢献になっているような状態。

職員に聞いてみた

「認知症ケアをしている中で

嬉しかったことってどんなこと？」

ご本人が意図せずに起こりうる周辺症状に対し、ご家族または地域の方が対応できる又は負担軽減できるようになり、生活負担が軽減した時やりがいを感じます。
(多摩市中部地域包括支援センター)

食べない、飲まないと拒否の強い患者さんが、太巻きとお稲荷を数口食べて誤嚥してしまった。その後末期状態になったが、ご家族は「母は作るのが上手だった。」「味覚えていたんですね。」「私は嬉しかった。最期に大好きなものが食べられて。」と言われ、認知症の患者さんだけでなく、ご家族の想いも知ることができ、優しい気持ちになった。
(あいクリニック訪問診療)

ご家族の認知症への理解、ご本人への理解が深まって、ご家族が上手に認知症に向き合えるようになると、ご本人もくつろいで安心して過せるようになると思うので、そんなところも、家にお邪魔してご家族と話ができるケアマネの役割だと思っています。
(ケアプランセンターあいクリニック)

【ある日の記録から】

- 声をかけながら爪切り、お顔拭きを行う。表情は穏やか。病室の清掃を行う。声かけにて視線が合う。



- ご家族の面会
「話しかけると、こっちを見てくれるんですよ。」と笑顔で話される。
- 就寝前のケアを行った。何度も手を合わせ「ありがとう」と言ってくださった。
患者さん・ご家族の嬉しそうな様子や、感謝の言葉をいただいた時にやりがいを感じ嬉しくなります。
(天本病院)

利用者さんの表情が変わっていく瞬間に立ち会えることは幸せだと思う。
(あいフィットネスサロンさくら)

ご家族より認知症の進行が緩やかである、穏やかに過ごせているという言葉聞いたときに嬉しく思います。
(あいクリニック外来)

7 認知症の方・家族・地域・社会から、 今、何を求められているかを 常に意識しよう

なぜならば

変化する社会文化や地域の中で、「あいセーフティネットに期待すること」に対してどのように応えるかが、私たちの最大の使命だから。



私たちは病としての認知症は理解したとしても、その方を理解し最期までその人らしい生活を送るための手助けがどれだけできているのでしょうか？

教育・指導という立場での振るまいでなく、「本人の意思を尊重」しご家族や地域の方々とともに安心して暮らせることを実現させましょう。

皆さんとともに成長するあいセーフティネットであり続けたいと願っています。

社会医療法人河北医療財団 副理事長
多摩事業部 事業部長
明石 のぞみ

モデルなき挑戦

私たちは、1980年から認知症であってもなくても、高齢者の方がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けることができるように支援してきました。

病院での治療だけでなく、
住み慣れた自宅で暮らすためには何が必要かを考えました。
医師も、看護師も、リハビリ専門職もご自宅に出向いていきました。
自宅で暮らし続けるためには、医療だけでなく生活を支えることが必要でした。
相談できる窓口、閉じこもりの予防、楽しく過ごせるための居場所、
ご家族が休養できるためのサービス、予防と健康管理のできる場所
認知症の方が安心して暮らせる住处、……
こうして、あいセーフティネットには約20の事業所ができました。

私たちは認知症の知識を深め、対応力を培い、
認知症であってもなくても、拒むことなく受け入れてきました。
この地域が認知症にやさしい街であるように、
この地に住む人々が認知症への理解を深め、互いにわかりあえるように、
講演会や勉強会を開催しました。

今、私たちの目の前にいる認知症の方やご家族・地域・社会が、
私たちに求めているものは何か
常にそれは何かを感じながら、考えながら、ご利用者の立場に立って、
体制やサービスを整備することが私たちの使命です。

職員一人ひとりが、ご利用者満足のためのサービスを日々追求し提供していく。
地域の方に信頼され、地域の方が安心して暮らせるために必要なこと、
私たちに期待されていることは何かを意識しましょう。
そうして「信頼と安心の創造」は未来へと続いていきます。

認知症ケアの取り組み



1980年(昭和55年)

- ・訪問診療活動開始
- ・天本宏が「天本病院」を開設(80床)

1986年(昭和61年)

- ・86床に増床
- ・訪問リハビリテーション活動開始
- ・理学療法施設開設

1987年(昭和62年)

- ・訪問看護活動開始

1990年(平成2年)

- ・作業療法施設開設

1995年(平成7年)

- ・「医療法人財団天翁会」設立天本宏が初代理事長に就任

1997年(平成9年)

- ・「多摩市在宅介護支援センターケアサポートたま」開設※

1999年(平成11年)

- ・「あい訪問看護ステーション」開設
- ・「あいクリニック」開設

2001年(平成13年)

- ・「多摩市桜ヶ丘いきがいデイサービスセンター」さくら」開設※

2002年(平成14年)

- ・言語聴覚療法施設開設

2005年(平成17年)

- ・「天本病院」が「新天本病院」とし新築増床移転(179床)
- ・「天本病院在宅ケアサービスステーション24」が「ケアプランセンターあいクリニック」に名称変更
- ・「あいグループホーム『はなきりん』」開設

2006年(平成18年)

- ・「多摩市中部地域包括支援センター」開設※

2007年(平成19年)

- ・「あいクリニック平尾」開設

2009年(平成21年)

- ・「あい訪問看護ステーション平尾」開設

2010年(平成22年)

- ・「あいケアプランセンターいなぎ」開設

2012年(平成24年)

- ・「あい小規模多機能施設かりん」開設
- ・「あいグループホームどんぐり」開設

2013年(平成25年)

- ・「あい訪問看護ステーション中沢(サテライト)」開設
- ・「あいクリニック中沢」開設

2014年(平成26年)

- ・「あい小規模多機能施設ほたる」開設
- ・「あいグループホーム『はなきりん』」を廃止し「あいグループホーム天の川」開設

2015年(平成27年)

- ・「認知症初期集中支援チーム」開始※
- ・「地域包括支援センター等における介護予防機能強化推進事業」開始(2016年/H27年度で終了)※

2016年(平成28年)

- ・「桜ヶ丘いきいき元気センター」開設※
- ・「多摩市桜ヶ丘いきがいデイサービスセンター」さくら」より移行
- ・「天本病院」開設(新天本病院より移行)
- ・「社会医療法人河北医療財団と合併
- ・「多摩市中部高齢者見守り相談窓口」開設※

2017年(平成29年)

- ・「介護予防による地域づくり推進員の配置事業」開始※
- ・「あい小規模多機能施設おきな(サテライト)」開設
- ・「あい訪問看護ステーションせいせき(サテライト)」開設
- ・「あいフィットネスサロンさくら」開設

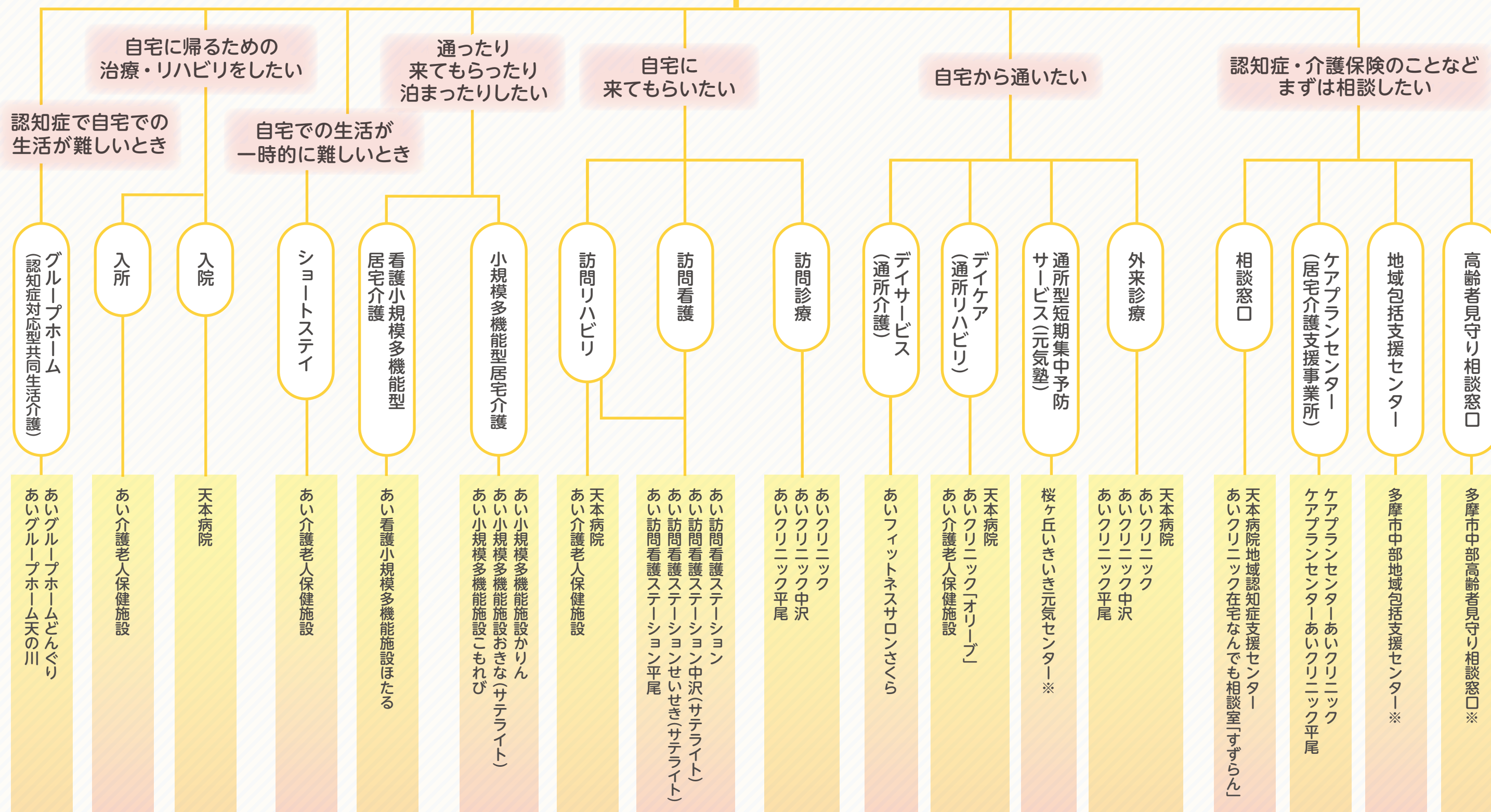
2019年(平成31年)

- ・「あい小規模多機能施設こもれび」開設
- ・「ケアプランセンターあいクリニック平尾」開設

2020年(令和2年)

- ・「あい小規模多機能施設ほたる」から「あい看護小規模多機能施設ほたる」に移行

最期まで自宅 で暮らしたい





『あいセーフティネット』とは

河北医療財団多摩事業部が推進する、多摩ニュータウンを中心とした医療・介護・福祉の地域ネットワーク体制です。

住み慣れた地域で安心して最期まで暮らす「地域包括ケアシステム」を推進します。

発行：社会医療法人 河北医療財団 多摩事業部 / 2020年3月

編集：認知症ケア冊子プロジェクト

池田健・曾谷真由美・鶴岡麻生子・田中香・田中匠作・淵野純子・河原なつみ・渡部真理・下川原明香・藤川道志・池田美保・井上麻子・有岡弘子・中西佳美